

かわむらこどもクリニックNEWS

Volume 26 No 9

301号

平成30年 9月10日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255

HOME PAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

日本外来小児科学会年次集会

院長

8月24～25日は、お休みをいただきありがとうございました。今月号は定例になっている日本外来小児科学会年次集会のテーマで、休診のお詫びと学会参加の旅行記として記事にします。昨年はスタッフを全員引き連れて三重県津市まで行って来ましたが、今年は院長一人の参加です。この年次集会は、ある意味スタッフの慰安旅行の面もあります。東京というとなかなか旅行というイメージが湧かなかったので、来年の福岡に備えて見合わせることにしました。

皆さんも知っていると思いますが、3年前に仙台で年次集会会長をつとめ、参加者が2500人を超える大盛況の会でした。今年は黒木先生が会頭となり、8月24～26日に東京国際フォーラムで開催されました。院長も遠方であれば、1日余裕を持って出かけるのですが、最近は休診も多く皆さんにご迷惑をおかけすることが多いこともあり、ギリギリのタイトなスケジュールになってしまいました。

24日午後から新幹線で東京へ。お昼は伊達の牛たんて焼いてもらった芯たん弁当を車内に持ち込み、ちょっとしたリゾート気分でした。学会に参加するちゃんとした格好の小児科医とは違っていました。東京に着いてホテルにチェックイン、休憩する暇もなく東京国際フォーラムまで。近いし運動にもなると思って当然のことながら徒歩で向かうことに。この判断がのちに問題を引き起こすことを知る由はありませんでした。会場に着いてすぐに役員会、そして代議員会で、今期も理事として承認を受けることができました。終わった後は懇親会で、新役員共々和気藹々の楽しい時間が流れました。

さて2日目は8:30受付開始に合わせてホテルを出発。ところが財布を忘れてUターン、すっかり汗びっしょりになってしまいました。受付を済ませて一つの目的である「かわむらこどもクリニックNEWS300号記念号」の展示。300号という金字塔へのネットワーク代表田草先生の配慮で、センターに3倍のスペースを確保してもらいました。「どうだろう、すごいだろう」との意味をこ

めて、自分でバナーまで作ってきた熱の入れようでした。その300号は待合室にも掲示してありますが、開業理念の「お母さんの不安・心配の解消」と座右の銘「継続は力なり」の渾身作です。さて院内報展示をすませると、特別な仕事はなく、興味のある演題の会場に足を運んでお勉強。そしてもう一つの重要なミッションである患者・家族会のブース訪問。昨年はブース前でミニレクチャーしましたが、今年は余裕もなく断念。今までのお付き合いのせいか、どのブースからも引っ張りだこで、写真を求められる羽目になりました。午後は全体集会と会頭公演、特に会頭講演では、3年前のステーブ・ジョブスばりのヘッドセットでの講演が思い出されました。最後のイベントである情報交換会では、目と鼻の先での松山バレエ団の踊りに感動し、バレリーナのすごさに圧倒されました。忘れ物で引き返し、午後からホテルの往復で1.5万歩も歩いたせいか、足が重いのを通り過ぎて痛みが出たので、夜は安静にということで大丸でステーキ弁当を購入し、ホテルの部屋でお一人様夕飯になってしまいました。

最終日は仙台市薬剤師会講演のための情報収集で小児AMRセミナーに参加。おかげさまで抗菌薬適正使用についての貴重なデータを得ることができました。休む暇なく、もう一つのミッションであるランチョンセミナー打ち合わせ。講演は静岡厚生病院小児科田中敏博先生の「ワクチンギャップは解消されたのか？」で、卒なく座長役をこなしました。会頭とお付き合いもあり閉会式までしっかり参加。得ることが多い年次集会でした。

今年もたくさん得るものがありました。抗菌薬適正使用講演のネタ。300号特集号では日本一との評価。座長は無事終了。思わぬところから性教育の原稿依頼も。そして歩きに歩いた3日間で3万歩。加えて、新しいたくさんの縁もありました。何より閉会式では忘れかけてた3年前の感動を思い出させてくれました。黒木会頭、実行委員の皆さんありがとうございました。胸がいっぱいで、夕食は蕎麦になってしまいました。

夏休みに続いての休診で、皆さんにはご迷惑をおかけしました。このように余裕を持って学会に参加できるのも、患者さんのご理解とご協力のお陰です。学会で得たものを、これからの診療に生かしていこうと思います。ありがとうございました。



9月のお知らせ

- ・栄養育児相談
5、19日(水)
13:30～
栄養士担当
参加無料



『子ども・子育て支援の都市仙台！ ネウボラを仙台に！！』

読者の広場

まずは300号特集号にお祝いのメッセージや子どもたちの作品、および写真を送っていただきありがとうございました。おかげ様で特集号と呼べるほどのしっかりしたクリニックNEWSを作ることができました。ここまで続けられ300号という金字塔を打ち建てることのできたのも、多くの愛読者のお陰です。改めて、お礼と感謝を示したいと思います。ありがとうございました。

お礼の次はお詫びです。300号の作成に手間取り発行が下旬にずれ込んでしまいました。夏季休暇、年次集会等の行事が重なり、結局8月号の発行は見合わせることにしました。7月に300号を迎えることができたが、今回で2回目の欠号になってしまいました。読者のお陰と書きながら、欠号になったのは全て院長の責任です。これからは「継続は力なり」を座右の銘として続けていきますので、応援をよろしくお願いいたします。

先月は夏休みだったのか、初めてメールがない月でした。クリニックのFacebookページに寄せられたものを紹介します。

宮城野区の匿名さんからです。「いつもお世話になっております。遠〇由〇の母です。由〇が3日ほど前から咳が出ていて様子を見ていたのですが、土曜日の夜、咳が止まらず熱も高かったため、日曜日の午前中に近くにある当番院へ行ってきました。診察の際、胸の音を聞いてすぐに気管支炎だ。と言われました。胸のレントゲン写真を撮って説明を受けた際、右の胸の部分が明らかに削れてる？凹んでるような写真でした。うまく空気が入り出ていないからだと、説明を受けお薬をもらい帰って来ました。当番院の先生がお薬手帳を見た際に、気管支炎のお薬がよく出てるのを見て、気管支喘息とかも一度検査したらいい。とおっしゃっていました。体質もあるかもしれないが、段々と身体も強くなると考えていた、私の考えはとても容易な考えでちゃんと子供の健康管理が出来ていなかったのではないかと、あのレントゲン写真をみてショックを受けました。今ゼーゼー、ヒューヒューと言いつつ苦しそうに咳混んでいる娘をみて、今後どのように対応していけばいいのが、かわむら先生に教えてもらいたく、相談の連絡をしました。お忙しい中すみません。」

それに対して「メールありがとう。心配でしたね。気管支炎と喘息の区別は難しいし、慎重になる必要があります。特に喘息という病名は予防をしなければならず、止むを得ず病名をつけて母親に理解してもらうものです。メールだけでは、細かいところまで伝わらないので、一度連れてきてきてください。それでは。」と返信しました。もちろん、その後受診して心配をしっかりと取り除くことができたようです。同じ小児科でも医師によって、説明の仕方が異なります。当院に慣れていた患者さんは他の医療機関を受診して不安になることもあるでしょう。それは仕方ないことなのです。急病診療所や休日当番はワンポイントしか見ていません。そんな不安の時にはメールで相談してください。不思議に心配事がある時誰かに聞いてもらう。それだけでも心が少し軽くなるというものです。それがかかりつけ医の役割で、当院が目指している「お母さんの不安・心配の解消」です。どんな相談ごとでも受けています(笑)



「あなたは大丈夫?! 子どもの救急蘇生!!」のご案内

9月は防災月間です。育児サークル「お母さんクラブ」では、15年以上前から9月に「あなたは大丈夫? 子ども救急蘇生!」を開催しています。

日時: 9月20日(木) 14:00から 場所: 福沢市民センター

内容: 子どもが怪我や事故などで対応が必要になったら、何をどんな順序で行動するのか。仙台市における救急対応状況等。ダミー人形を使っての救急蘇生、異物除去、AED装着等講話よりも、実際の状況に即しながら声を出し身体を動かしながら体験することを目的としています。笑い声が溢れる楽しい雰囲気の中、救急蘇生の基礎が学べます。一昨年医師会広報誌「てとてとて」に活動の紹介とともに掲載されました。

参加資格はお母さんクラブ会員、メールニュース会員、FBをいいねしてくれた方です。奮って、ご参加下さい。希望の方は、受付まで申し込みください!



CLINIC NEWS 300号発行へのお礼

お陰様で特集号へのお祝いメッセージ、子どもたちの作品、写真などを送っていただき、ありがとうございました。

お陰様で300号を飾るにふさわしい10ページにわたる特集号と呼べるような仕上がりにになりました。

一面記事でも紹介しましたように、日本外来小児科学会年次集会で、堂々と日本一ということで展示することができました。

ご協力ありがとうございました。

平成30年北海道胆振東部地震義援金のお願い

9月6日未明に発生し、最大震度7を観測した北海道の地震では大きな被害がみられています。被災者の方々へのお見舞いと、亡くなられた方のご冥福を心よりお祈りいたします。

大きな地震は東日本大震災の辛さを呼び起こします。東日本大震災では、多くの人たちに支えられました。

仙台から何かできることがないのかと考え、クリニックで義援金を募ることにしました。

よろしく、ご協力をお願いいたします。

Mail News, Facebook の紹介

Mail News は600人を越えるお母さんが登録し利用しています。件名を「登録希望」とし、登録者の名前とお子さんの名前を記載し送信してください。下のQRコードから是非登録をお願いします。

その他の情報発信として

Facebook ページ、YouTube にも取り組んでいます。最新情報はFBをどうぞ。Mail News が、かなり戻ってきます。届かない場合は kodomo-clinic.or.jp をドメイン指定して下さい。不明な点は受付まで問い合わせ下さい。

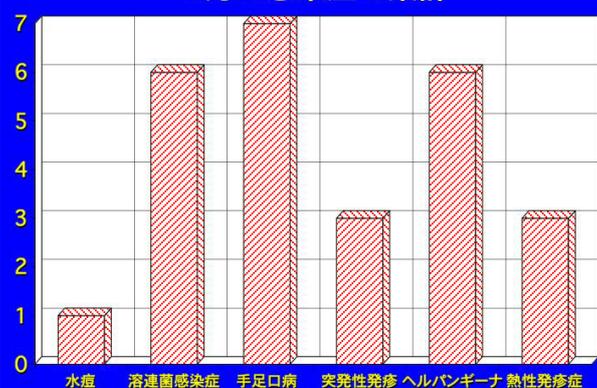


MailNews



Facebook

8月の感染症の集計



夏に多く見られる発疹を伴う手足口病、ヘルパンギーナなどのウイルス感染症が目立ちます。溶連菌感染症も多く、また水痘がみられました。それ以外の特別な感染症の流行はありません。しかし夏は小児科の患者さんが少ない時期ですが、今年は例年と変わって、いわゆる患者さんが多いようです。

編集後記

なんども書きますが、8月号の新聞を出せず仕舞いでした。これで2回目ですが、今回は入院という大きな理由がありました。今回は特集号発行という理由にしましたが、正直言ってしまえばサボりです。記念号に対して応援をいただいたにも関わらず、ある意味恥ずかしい限りです。今回のことを反省として、また続けていくつもりです。またまた、皆さんの応援が必要になります。どうぞよろしくをお願いいたします。



麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『1才のお誕生日に麻しん風しん混合ワクチンを』
『お母さんクラブ』現在会員を募集中です。参加希望は受付まで。!!